



CHIYODA GROUP



千代田化工建設

CSR

グループCSR報告書

2012



会社概要

目次

| | |
|----------------------|----|
| 会社概要 | 本頁 |
| 編集方針 | 1 |
| 千代田グループのCSR | 2 |
| トップ対談 | 4 |
| 特集: 千代田グループならではのCSR | 8 |
| 持続可能な社会を目指した、経営理念の実践 | 8 |
| 東日本大震災復興への取り組み | 9 |
| 国内外グループ会社の活動紹介 | 10 |
| CSRビジョンごとの活動紹介 | |
| CSR vision ① | |
| ～信頼される企業 | 12 |
| CSR vision ② | |
| ～環境への取組 | 13 |
| CSR vision ③ | |
| ～事業を通じた社会への貢献 | 14 |
| CSR vision ④ | |
| ～人の尊重 | 15 |
| CSR vision ⑤ | |
| ～公明正大な企業運営 | 16 |
| 第三者意見 | 17 |

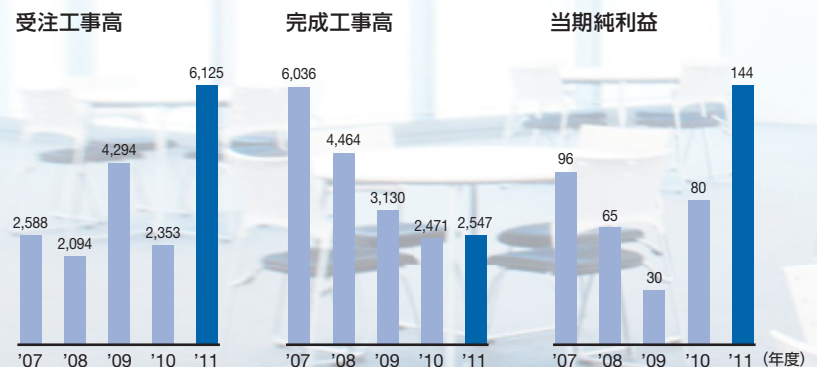
千代田化工建設は、日本および海外において、各種プラント・施設
の設計・建設を主要事業とする総合エンジニアリング企業です。

私たちは、エネルギーと環境の調和を図りつつ、持続可能な社会
の発展に貢献する企業グループとしてチャレンジします。

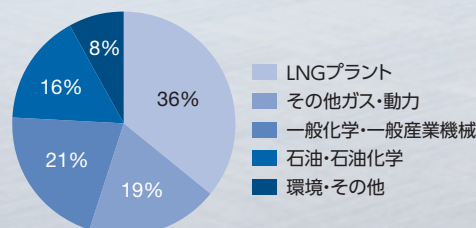
(2012年3月31日現在)

| | |
|---------|--|
| 社名 | : 千代田化工建設株式会社 (CHIYODA CORPORATION) |
| 所在地 | : 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号 (2012年6月移転) みなとみらいグランドセントラルタワー |
| 主なオフィス | : 千代田化工建設グローバル本社(横浜市西区) 子安オフィス・リサーチパーク(横浜市神奈川区) 東京オフィス(東京都千代田区) |
| 資本金 | : 433億96百万円 |
| 主な事業内容 | : エネルギー、化学、医薬品、バイオ、環境分野などの各種 プラント・施設に関するコンサルティング、計画、設計、調 達、建設、試運転、運転・保安全管理コンサルティング/トレ ーニング、研究開発・技術サービス、プロジェクトマネジメント |
| グループ会社数 | : 国内グループ会社9社 海外グループ会社12社 |
| 従業員数 | : 4,530名(千代田グループ) |
| URL | : http://www.chiyoda-corp.com/ |

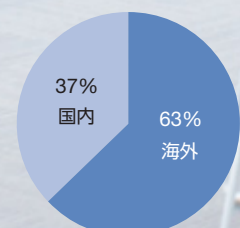
連結業績(億円)



分野別売上高構成比(2011年度)



地域別売上高比率(2011年度)



表紙について

2012年6月に横浜・みなとみらいへ移転した千代田化工建設グローバル本社と、大海原を越えた海外プラント建設現場で働く多様なスタッフの写真を使用しています。

国内外でさまざまなプロジェクトを推進する当社グループが、グローバルに活動をしている今と、今後さらにグローバル規模で「エネルギーと環境の調和」を実現していくという決意を表現しました。



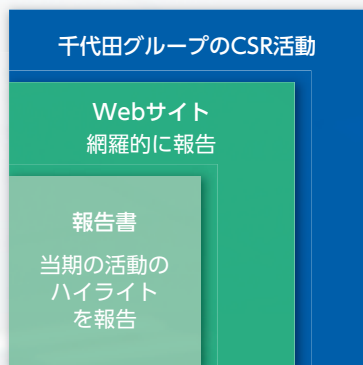
表紙: 千代田化工建設グループCSR報告書 2012

編集方針

当社グループのCSR活動は、
WebサイトとグループCSR報告書で報告しています。

Webサイトと報告書のすみ分け

Webサイトと報告書の記載内容のすみ分けは右図のとおりです。Webサイトでは、閲覧者の皆様にご理解いただきやすいよう、当社グループのCSRに関する基本情報や活動内容を、CSRビジョンごとに紹介しています。



CSR報告書の構成

報告書では、2011年度の活動をハイライトしてご報告しています。

「会社概要」、「トップ対談(当社社長のメッセージを有識者との対談を通じて紹介しています)」、「CSRビジョンごとの活動紹介」に加え、今回は「特集: 千代田グループならではのCSR」、「国内外グループ会社の活動紹介」を設け、幅広く千代田グループのCSR活動をご紹介します。また、CSR活動をより良いものとするため、有識者から客観的な評価、助言をいただき、「第三者意見」として掲載しています。

報告の対象範囲

千代田グループ22社(千代田化工建設および連結子会社・持分法適用関連会社21社)のCSR活動を、報告の対象範囲としています。特定の会社による活動をご紹介します場合は、その旨記載しています。

報告の対象期間および発行

報告対象期間: 2011年度
(2011年4月1日~2012年3月31日)
発行月: 2012年9月

参考にしたガイドライン

「the Global Reporting Initiative's Guidelines (the G3.1 guidelines)」、「環境報告ガイドライン2012年版」(環境省)、およびISO26000を参考にしています。

【ご意見・ご感想をお寄せください】

皆様のご意見やご感想を、私たちの活動に反映させたいと思っています。皆様のご意見やご感想は、当社Webサイト内「お問い合わせ」ページのフォームより「CSR関係」をお選びの上、お送りください。

Webサイト「CSRへの取り組み」のご案内

当社Webサイト内「CSRへの取り組み」ページでは、報告書の報告範囲以外の取り組みや環境データなどを含め、千代田グループのCSR活動の全容を掲載しています。



このほか、千代田グループのDNAとも呼べる小冊子「21世紀への遺産」や、CSR報告書のバックナンバーなども掲載しています。

<http://www.chiyoda-corp.com/csr/>

千代田化工 CSRへの取り組み

検索

千代田グループのCSR

私たちの使命

千代田グループ経営理念

総合エンジニアリング企業として、英知を結集し
エネルギーと環境の調和を目指して事業の充実

私たちの価値観 CSR vision

| | | ISO26000 中核主題対応項目 |
|---|--|----------------------|
| 1 | 信頼される企業 世界トップクラスの技術と知見の提供により、お客様をはじめ取引先から信頼され続ける企業となるよう努めます。 | 消費者(顧客)課題 |
| 2 | 環境への取組 研鑽された技術を駆使して、地球環境と、経済・社会活動の調和を図り、社会にとってかけがえのない企業であり続けるよう努めます。 | 環境 |
| 3 | 事業を通じた社会への貢献 国内・海外のエンジニアリング事業の遂行を通じ、人材育成、技術移転、環境保護等地域社会への貢献に努めます。 | コミュニティー参画 および開発 |
| 4 | 人の尊重 全ての人々の人権を尊重します。同時に従業員の多様性、個性、人格を尊重し、従業員とその家族が誇りを持てるような働きやすく、働きがいのある企業風土作りに努めます。 | 人権 労働慣行 |
| 5 | 公明正大な企業運営 常に高い倫理観に基づいて公正な事業を営み、透明性と安定性を高めるよう努めます。 | 組織統治 公正な事業慣行 |

私たちが行動する際の拠り所

千代田グループ
行動規範

研鑽された技術を駆使して、
を図り、持続可能な社会の発展に貢献する。

私たち千代田グループは総合エンジニアリング企業として、事業の推進により社会の持続的発展に寄与することはもとより、以下を継続的に推進することにより企業価値を高め、全てのステークホルダーから信頼と共感を得る企業であり続けるよう努めます。

| 活動方針 | 2011年度の活動 | 具体的な取り組み |
|---|--|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 質の高いエンジニアリングの提供によりお客様の満足を得る信頼性のあるプラントの提供 ベンダー、サブコントラクターなど取引先とのCSR理念の共有 | <ul style="list-style-type: none"> エネルギーの安定供給と地球温暖化ガス削減への取り組み エネルギー源の多様化への貢献 お客様の信頼に応えるプラント建設 | <p>P. 8, 9, 12</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の少ないエネルギー技術、環境保全技術の開発、提供 環境保全に寄与する企業活動 | <ul style="list-style-type: none"> 低炭素社会・水素社会に向けた研究開発の継続 再生可能エネルギーの普及、促進 環境および生物多様性に配慮したプロジェクトの計画、運営 | <p>P. 13</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 事業を通じた社会への貢献活動の整備 知力・労力の提供による社会貢献活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 地域社会の文化振興助成 地域社会の経済発展、人材育成への貢献 次世代教育のための教育機関との連携、協力 東日本大震災復興への取り組み | <p>P. 14</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 活気に溢れた組織風土づくりと人材育成の実現 「安全はコアバリュー」の全関係者への浸透 | <ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場環境づくり 安全文化の確立と徹底 人材育成制度の充実 | <p>P. 15</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスの徹底と透明性ある企業活動 リスク対応の徹底 | <ul style="list-style-type: none"> 国内外出張所・グループ会社との連携強化 継続的なコンプライアンス教育および監査の実施、充実 ISO27001の取得促進、認証継続ならびに情報セキュリティマネジメントシステム運用の定着、向上 | <p>P. 16</p> |

千代田グループ
役職員行動の手引き

「千代田グループ行動規範」「千代田グループ役職員行動の手引き」につきましては、下記Webサイトをご参照ください。

千代田グループ行動規範
<http://www.chiyoda-corp.com/company/policy/behavior.html>

千代田グループ役職員行動の手引き
<http://www.chiyoda-corp.com/company/policy/compliance.html>

トップ対談

経営理念の実現に向け、「強い会社、強い社員」を目指しています。

千代田化工建設(株)
代表取締役社長

久保田 隆
×

(株)大和総研
調査本部 主席研究員

河口 真理子

企業の社会的責任(CSR)および社会的責任投資(SRI)研究の権威である河口真理子氏と久保田社長が千代田グループのCSRについて対談しました。

河 口 (文中敬称略、以下同) 御社の創業以来のキーワードであり、グループ経営理念の真髄でもある「エネルギーと環境の調和」ですが、現在では社会の変化とともに、環境もエネルギーも内容が大きく変わってきていると思います。このような点も踏まえて、経営理念に込めた意味を教えてください。

久保田 1970年代に、創業者の玉置明善が掲げた『21世紀への遺産』^(注1)の原点はシンクタンクのローマクラブが発表した『成長の限界』でした。従来やり方でエネルギーを使用し続けたら環境に多大な影響を及ぼす。環境に優しい技術を開発しなければいけないという発想は当時から持っており、エネルギーと環境の間に存在する問題を解決するための技術開発に取り組むことを、トップ自らイニシアチブを取って社内外に宣言し実行してきました。

以来当社は、日本および世界の各地における社会インフラ整備・復興によるエネルギーの安定供給と環境保全の両立、すなわち「エネルギーと環境の調和」を旨として事業を推進してきました。今後もこの理念を貫き事業を推進し社会に貢献することが、「千代田グループならではのCSR」であると考えています。

(注1) 1972年に発行した人類の発展と自然調和を提唱する小冊子。エネルギーと環境問題を解決するための技術開発に取り組むことを宣言し、この精神は現在も千代田人に引き継がれ、千代田グループの技術のバックボーンになっている。

(注2) ヴィクトリア女王を支え英国の繁栄を築いた、夫君アルバート公の記念碑(1872年建立)の台座にはこの繁栄を築いた4つの柱として、アグリカルチャー(農業)、コマース(商業)、マニュファクチャー(工業)、エンジニアリングの言葉が刻まれている。その中で、エンジニアリングだけ適切な日本語訳がない。



エンジニアリングとは

河 口 プラントエンジニアリングという言葉は知っているものの、これまでなかなか縁がなかったので私は遠い、堅いイメージを持っていましたが、御社の経営理念を理解することで、有機的なものとして身近に感じることができました。

久保田 適切な日本語訳がない^(注2)ので、イメージしにくいのではないのでしょうか。エンジニアリングとは、さまざまな機器、資材を組み合わせ、最適なシステムとしてのプラントを築き上げる、すり合わせる技術と言えます。そのためエンジニアリングには、工学系の多様な知識と管理系の能力が必要なのです。通常、一つのプラントを完成させるには3年から4年かかり、金額的にも大きなものは数千億円規模となるため、プロジェクトマネジャーは会社経営と同じで、すべてを背負わなければいけない。技術や管理系に関し、物事をきちんと理解して判断する能力が必要となります。

河 口 何も無い場所を整地して、水やエネルギーといったインフラを全部入れ込むわけですね。日本のエンジニアリングの強みというのは、きめ細かさとかオリエーの高さということでしょうか。

久保田 さらに信頼性の高さです。例えば、プラントというのは1日稼働が停止すると、顧客の口は数十億円に及ぶこと



河口 真理子氏
(かわぐち まりこ)

1986年一橋大学大学院修士課程修了(公共経済学、環境経済学専攻)、同年大和証券(株)入社。外国株式部、投資情報部を経て、1994年(株)大和総研に転籍、企業調査部を経て、現在、調査本部 主席研究員。

環境経営、企業の環境評価、環境会計、環境報告書、社会的責任投資、企業の社会的責任を研究テーマとしている。

著書に『環境情報ディスクロージャーと企業戦略』(東洋経済新報社(共著))などがある。

もありますので、品質が高く、安定稼働を維持することが大切なのです。初期コストだけでなくメンテナンスコストが非常に少なくて済む日本の品質は、総合的に考えれば安いと判断されるわけで、これが信頼性につながります。

河 口 御社は、技術力でエネルギーを最適に利用して、人間の生活、インフラの整備、さらに環境負荷の少ないエネルギーを供給するということをモットーに、かなり早い段階から天然ガス(LNG)分野も手がけていますね。

久保田 日本でLNG導入の計画が出来上がったのは1960年代の半ばです。当時は、いくら石油の脱硫装置をつくって硫黄分の少ない重油を生産しても需要に追いつけず、京浜地区では大気汚染が深刻になっていました。LNGの最初の受け入れ基地であった横浜・根岸工場の設計工事を受注し、初めてLNGに取り組み、その後は海外にも進出しLNGプラントを多く手がけることになりました。

河 口 カタールでは世界最大のLNGプラントを手がけられましたね。大規模プロジェクトを推進し、プラントをうまく稼働させるための重要なポイントは何でしょうか。

久保田 重要なことが3つあります。1つ目が安全、完成したプラントの操業上の安全と工事中の安全の両方です。2つ目は信頼性、プラントが停止することなく継続的に稼働することです。3つ目が品質。うち一つでも欠けたら、プラントは正常に稼働しません。

カタールのプロジェクトはLNGプラントの超大型化という未知への挑戦でした。世界初の試みであったため、新たな設

計手法を開発・採用しました。

1,000万点を超える資材管理や、多くの技術者の動員、さらには想定以上の規模であったため、不足しがちな熟練労働者のリソースを苦勞を重ねてやりくりし完成させました。品質・納期管理を徹底したプロジェクトマネジメント力で、ピーク時には80カ国以上の75,000名にも上る工事従事者の安全・環境衛生教育を徹底しながら工事を遂行し、成功裏に完成させ、国内外から高い評価をいただきました。

エンジニアリングの原点は「創造への挑戦」だと思っています。これからも、安全、信頼性、品質をベースに、創造力溢れるエンジニアリングを展開していきたいと考えています。

求められる人材とは

河 口 お話を伺っていると、エンジニアリングという事業を進める上で、人材は大変重要なのではないかと感じました。

久保田 そのとおりです。技術系の機械、化学、電機、土木建築などあらゆる分野に加え、プロジェクト管理系では人事から財務、法務といった広い分野の知識が必要になりますので、あらゆる分野の人材を万遍なく採用しています。

また、大型プラントになれば約1,000万点に及びプラントの部品を、専門の技術者が設計して取引先に発注するのですが、仕様の決定から製作、納入までのすべてにおいて調整が必要になってくることから、すり合わせが非常に重要です。プラントエンジニアリングの一番のおもしろいところでもあるのですが、コミュニケーション力がないとうまくいきません。

河 口 社長はかねてより「強い社員をつくり、強い会社にする」とお話しになっていますが、「強い社員」とはどのような人材なのでしょう。

久保田 社会への貢献を意識する高い志の持続と自己変革へのチャレンジをする人材です。当社のプロジェクト実績紹介の際によく出てくる「世界初、日本初、最大級、地域の発展に寄与」といった言葉に表れているように、エンジニアリング、プロジェクトマネジメントをする上では、常にイノベーションやさまざまな課題にチャレンジする姿勢と、社会貢献を目指す高い志が必要とされ、この精神を持つ社員が多くの実績を生み出してきました。

河 口 「強い社員」になりうる人材を採用し育成していくために、どのような方法をとられているのでしょうか。

久保田 バランスの取れた人格を持っている学生を評価するようにしていますが、重要なのは入社してからの実学です。入社2カ月間のオリエンテーション後には、すぐ現場に配属しま

す。実際の図面を知らない人が多いですから、現場で図面を見て、実際に物がどう変わっていくのかを体験させます。

私自身も、座学とともに実際の現場での体験が人を成長させることを実感していますので、この基本的な考えに基づき、育成しています。

学校の勉強が優秀でも、業務をやり切る強い人材になるには胆力と知力がないと伸びていきません。この両方を兼ね備えた人材を目指すためにも、モチベーションの高い方に入社いただき、あとは実際に訓練しながら成長してもらうことになります。

また、技術の継承にも力を入れています。このため「千代田エンジニアリングアカデミー」というものを設け、OBの方々に講師をしていただいて、技術の継承ができるよう、定期的に講座を開催しています。

また、グローバルな視点をどんどん持ってもらいたいということで、フィリピンとインドにある当社のグループ会社のエンジニアに来てもらったり、他の外国人社員のエンジニアと合わせて、多いときで300名近い外国人従業員と一緒に仕事をす環境をつくっています。

河 口 グローバル企業として日本で有名なのは、自動車や電機などB to Cの会社が多いというイメージがありますが、御社のように海外で展開しているB to Bの会社が、実はずっとグローバルで多様性があるんですね。

実際、多様な国籍のメンバーとコミュニケーションをどのように取っていらっしゃるのか、もう少し詳しく教えていただけますか。

久保田 1970年代から、“全国際化”を掲げて取り組んできました。

例えば、カタールのグループ会社には、現在400名くらいの社員がいますが、国籍は全部で約30カ国、日本人はパーマントベースで約20名だけで、しっかり運営しています。シンガポールも同様です。基本的に“地産地消”という考えで、一定の仕事までは全部現地の会社で進められるように人材を育成しています。

河 口 その自立型の運営はすばらしいですね、会社で蓄積されたリソースがあるだけでなく、今の日本社会に欠けている部分を持っている御社の特長や、グローバルに活躍でき、人をまとめる力を持つ社員がいるということ、ぜひもっと社

外に発信していただきたいと思います。

一方で、若くして入社したやる気がある社員には、どんどんチャンスがある半面、入社2~3カ月で現場に出されるのは、結構きついという社員もいるのではないのでしょうか。最近、新卒で就職しても、短期間で辞めてしまう人が多くなっているようですが、御社はいかがですか。

久保田 その点、当社の離職率は比較的低いほうです。この理由は、プラントエンジニアリングというのは、例えば若手社員であっても担当業務の取扱高が高額となるケースが多いので、自分たちがどうやってそうした高額なものを扱う業務をそしゃくするかということに神経を注がなければいけない、大変ダイナミックな業務ということがあると思います。

もう一つは、社風として良い意味の自由度がすごく高いこともあるようです。

ダイバーシティマネジメント

河 口 企業のグローバル化やCSRの観点から、ダイバーシティマネジメントに注力される企業が増えていますが、御社ではいかがですか。女性社員はどのような活躍をしていらっしゃるのでしょうか。

久保田 女性でもプラント建設現場で活躍しています。現在、当社社員約1,600名のうち、女性社員は約170名です。そのうち幹部職が約20名、部長クラスも複数おり、今後はもっと登用されていくと思います。

事務能力を生かした分野に加えて最近、プラントをつなぐ配管の分野で女性応募者の比率が高くなっています。女性



建設現場で活躍する女性社員

の特徴の一つであるきめ細かさ、根気強さを生かして、今後は、在宅勤務を増やすといったことを含めて就業環境も充実させれば、さまざまな家庭環境にある女性の活躍できる機会がさらに増えていくものと期待しています。

河 □ 私が想像したよりも多いですね。今までエンジニアリング企業では、女性がどういう立場で、どのような仕事ができるのかなど知りませんでした。プロジェクトの中で、配管などの細かな部分がうまくいかないと、甚大なロスになる。だから、そこをきちんとやることに大変意義がある。優秀な女性の幹部職が活躍していることを見れば、御社に対する理解が進み、イメージも変わると思いますね。

それから女性の活用ということでは、ボードメンバーに女性がいると、男性と観点の異なる意見も反映することができ、いろいろなリスク管理が強化されるといった調査結果もあります。

久保田 女性役員の登用に関しては、今後の課題として受け止めています。将来、女性役員も生まれるでしょう。

女性活用以外にも、これからますますグローバル化が進みますので、性別、人種を問わず全世界の優秀な人材リソースを活用し、全世界で活躍できる組織を整えていくつもりです。

プロジェクトにおける環境や コミュニティへの対応

河 □ 現在ではNGOが強くなり、世の中の企業に対する目が厳しくなっています。御社は大きなプラントをいくつも手がけられてきていますが、地元の人たちとどのようなコミュニケーションを図っていらっしゃるのですか。

久保田 国内・海外ともに、プラントを建設する場合に一番大変なのがその点です。環境は当然のこと、コミュニティの方々が持っているプロパティをどう保護するか、既存のインフラを壊さずにどう調和しながらプラントをつくるかというのがプロジェクトの成否に関わる最も大きなポイントですから、そこに相当な時間をかけています。実際にプロジェクトを始める際には、お客様と一緒に緊密に連絡を取り合い、当社のプロジェクトチームが協同で対応しています。

河 □ 今後、日本企業もグローバル展開していく中では現地での環境やコミュニティへの対応を取っていかねばなりませんので、御社の取り組みや、地元の方々と関わってこられた体験は良い参考事例になると思います。

CSR活動についての抱負

河 □ 最後に今後のCSR活動についての抱負などをお聞かせください。

久保田 本年6月に、本社ビルを横浜市鶴見区からみなとみらい地区へ移転しました。

150年以上前から日本を国際社会に導いてきた象徴的な横浜港に近いこの地に、さらにグローバルな発展を目指す当社グループのヘッドクォーターを設置してデビューできたことは幸先良いスタートが切れたと思っています。

よりグローバルな千代田グループとなるために今後取り組むべき課題や、長期目線で会社はどうあるべきかなど、すべてのステークホルダーの皆様の期待に応える努力を継続し、「エネルギーと環境の調和」を使命として社会に貢献してきたコーポレートブランドを確立し、将来目指すべき方向をつくり上げていきたいと思っています。このためにも、新しい環境で、業務効率向上にも資するライフスタイルの見直しなどにより、創造的な仕事を行うことのできる心理的余裕を生み出す、新しい千代田のワークスタイルを築き上げていきたいと思ったり、それがこれまで述べてきました「強い会社、強い社員」による「千代田ならではのCSR」につながるものと確信しています。

河 □ お話を伺っていると、プラントは体と同じで、肺の隣に消化機能があって、有機的につながって機能している一つの生命体というか、生き物のようですね。ハードで、金属的で人を寄せつけないイメージを持っていたエンジニアリングとは、生き物づくりであり、ロマンにあふれ、世の中に役立つような有機的なものをつくり上げる事業であることを教えていただきました。「エンジニアリングとはオーガニック」なのではないでしょうか。

千代田グループのこれまでの経験や高い技術力、マネジメント力、強い社員、何よりも高い志を通じて、事業はもとより、地域社会への貢献活動も着実に広げていける、夢あるグループであるということがよく理解できました。ますますのご活躍に期待します。



特集: 千代田グループならではのCSR

持続可能な社会を目指した、経営理念の実践

千代田グループは、「エネルギーと環境の調和」を経営理念の中核に掲げて、事業に取り組んできました。1972年に発行した小冊子『21世紀への遺産』では、エネルギーの安定供給と環境保全の両立を実現するための技術開発やエンジニアリングに取り組むことを広く社会に宣言し、現在もこの精神は事業活動のバックボーンとなっています。



<http://www.chiyoda-corp.com/pdf/csr/heritage>

この精神に基づき、これまでCT-121プロセスに代表される排煙脱硫技術、排水処理技術、重質油の分解などの環境技術の開発に努めてきました。さらに現在では、CO₂削減による低炭素社会実現に寄与する太陽光・熱などの再生可能なエネルギー利用、水素の大量貯蔵輸送技術による水素サプライチェーンの構築、GTL関連技術開発など新エネルギーの分野においても着実に活動を拡大しています。

また、プラント建設工事を通じて、その地域の経済発展、雇用創出のみならず、テクノロジー転スファー、研修生の受け入れなどの人材育成に貢献するとともに、グリーン調達推進、環境配慮設計、工事期間中の環境モニタリングなど、プラント周辺の自然環境、および生態系などの保全にも努めています。



ジョージア パワー社(米国)ボーエン発電所
3号ボイラー CT-121排煙脱硫設備



カタールガス2社(カタール)
LNGプラント(トレイン4)



東亜石油(株)川崎軽油深度脱硫装置

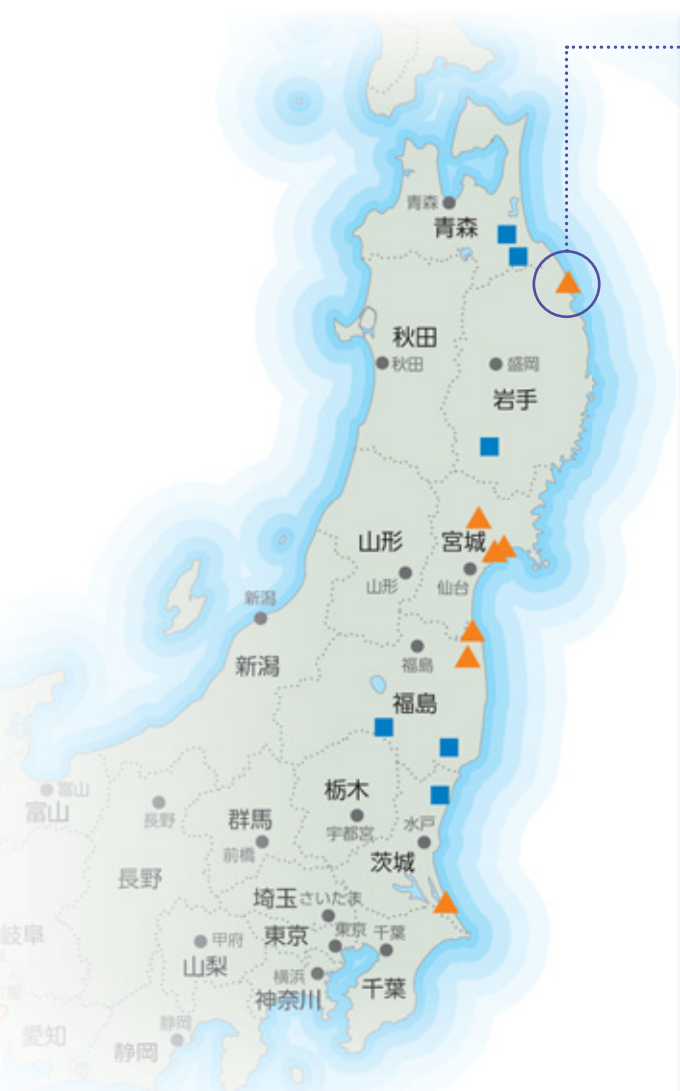


Japan-GTL実証プラント(新潟)

東日本大震災復興への取り組み

千代田グループでは、2011年3月11日の東日本大震災発生直後に復興対策本部を設置し、被災した地区の顧客生産設備の復旧にこれまで全力を挙げて取り組んできました。2012年3月末までに60件を超える復旧対応を実施し、一部は現在も継続中です。

また、会社、従業員、国内外グループ会社からの義援金の拠出や、ボランティア特別有給休暇制度の新設などによる、グループ従業員の自発的な活動の助成にも注力しています。



- ▲ エネルギー関連施設
石油精製設備／石油備蓄基地／発電関連設備
- 一般産業設備等
製薬・製剤工場／空港施設／化学品工場／工業資材工場

日本地下石油備蓄(株)久慈国家石油備蓄基地 地上施設復旧の第1ステップ工事完了

東日本大震災の大津波により、当社が建設した久慈国家石油備蓄基地(岩手県久慈市)の地上施設は壊滅的な被害を受けました。



震災翌日に日本地下石油備蓄(株)から緊急対応要請を受け、交通手段もままならない中、震災から3日後の14日には現地被害調査のために現場へ駆けつけ、顧客とともに復旧工事計画を立案しました。基地設備としては、原油を備蓄している地下岩盤タンク自体は無傷でしたが、原油備蓄を維持するための排水処理設備や受変電設備などほぼすべての地上設備が損傷していました。復旧工事の第1ステップとして、岩盤原油備蓄を健全に維持するために最低限必要な凍結対策設備を10月末迄に復旧することとし、震災発生翌月の4月には工事に着手しました。

この復旧工事は凍結が始まる冬場までの約7カ月間で完了するという、通常時ですら非常に厳しい短期工程であることに加え、未曾有の大震災により日本中が混乱し、東北地方の物資・マンパワーが圧倒的に不足している状況の中、遂行には多くの困難がありました。ピーク時には昼夜兼行で作業を進めるなど、不断の努力を行った関係者の方々にも支えられ、10月15日に受電を完了し、10月末には凍結対策工事一式の完工を達成することができました。

久慈基地の復旧工事は始まったばかりであり、地上設備の完全復旧に向けてはまさにこれからが正念場となります。久慈基地の復旧が日本の早期の復興に寄与すると考えており、エンジニアリング会社としての社会的使命を果たすべく、一日も早い設備の復旧に向けて努力していきます。

国内外グループ会社の活動紹介

千代田工商(株) <http://www.cks-ykh.co.jp/>

石油学会主催の精製パネル討論会に参加

2012年1月20日、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京・渋谷区)で、石油学会が主催する第37回精製パネル討論会が開催されました。

「製油所安全文化醸成への取り組み」と題したセッションでは、製油所の安全文化確立には、保全工事の安全対策が重要であるとの考えから、国内の主要な石油精製会社の安全活動への取り組みおよびその実態と成果、各担当者の活動牽引における思いなどが披露されました。エンジニアリング会社から唯一のパネリストとして千代田工商(株)の高梨悟安全管理部長が参加し、千代田グループの安全への取り組みを紹介しました。



ITエンジニアリング(株) <http://www.ite.co.jp/>

「MES DAY」セミナーの開催

医薬品製造に関わるコンピュータシステムの法規制は、「製薬会社の説明責任の明確化」や「日米欧での要求の統一化」の動きが顕著になってきています。こうした状況に鑑み、2012年1月に「法規制への対応とMES^(注)ソリューションの活用」をテーマとした「MES DAY」セミナーを開催し、東京、大阪の製薬会社から合計46名の方々に参加いただきました。複数の講演をとおして、製薬工場の製造システム運用に関わる方々との意見交換の場を提供することができました。

(注) Manufacturing Execution Systemsの略。生産現場で、製造工程の状態の把握や管理、作業員への指示や支援などを行う情報システムのこと。

千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(CSL) <http://www.chiyoda.com.sg/>

ITE教育分野への貢献

地域社会への価値ある貢献をCSR活動の主な目標としています。この活動の一つに将来を見据えたシンガポールのITE^(注)教育の改革があります。これは、当社取締役のTham K Yが教育諮問委員会のメンバーとして、ITE教育のコースカリキュラムが地元の産業へ適合しているかどうかを見直し、意見を述べています。これにより、カリキュラムは常に地場産業との関連性が保たれ、有益なものとなっています。

(注) Institute of Technical Educationの略。1992年シンガポールの教育省のもと設立された中等教育後の教育機関。職業的スキルや技術教育を学ぶことを目的とし、3つのカレッジで構成されている。



ITEカレッジおよび本部ビル

千代田計装(株) <http://www.ckc.chiyoda.co.jp/>

講演会「エンジニアリング業界の第一線から見た理想的な学生像」を開催



2011年11月17日に講演会「エンジニアリング業界の第一線から見た理想的な学生像」を東海大学湘南キャンパスで開催し、同大学理学部の教職員と学生約30名が聴講しました。これは文部科学省の「平成22年度大学生の就業力育成支援事業」に採択された同大学の提案により実施されたものです。

2011年11月17日に講演会「エンジニアリング業界の第一線から見た理想的な学生像」を東海大学湘南キャンパスで開催し、同大学理学部の教職員と

当社の村重宜宏取締役が、これまで約18カ国でさまざまな施設の建設に携わった経験談を交えながら、エンジニアリング産業は学際的な性格も強く、理学部の学生には幅広い分野で重要なエキスパートとして活躍できる可能性があることなどを解説しました。また、この業界では仕事を通してエキスパートに育っていく傾向が強いため、成長意欲が高く、柔軟で旺盛な知識欲を持っている人材が望ましいなど理想的な学生像を説明。

終了後の質疑応答では、企業で求められるコミュニケーション力の向上方法や、企業が学生を選抜する際の指標などについて、参加者から積極的な質問が行われました。

千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ(CMSB) <http://www.chiyoda.com.my/>

従業員のための日本語教室

従業員に日本語を学ぶ機会を提供しています。日本語教室は週に一度開かれており、生徒たちは資料を参考にしながら、日本人のテクニカルアドバイザー、黒澤氏から直々に指導されています。会社のイベントで生徒たちが堂々と日本の歌を歌って、日ごろの成果を披露しました。



千代田フィリピン・コーポレーション(CPh) <http://www.chiyodaphil.com.ph/>

子供たちとクリスマスパーティーを開催

2011年12月、近隣の恵まれない子供たちのためにクリスマスパーティーを開催しました。“Give Love this Christmas ークリスマスに愛をー”をテーマとしたこのパーティーには、厳しい生活環境にある子供たちを支援する団体Unang Hakbang Foundationから200名以上、マンダロン市のBarangay Addition Hills地区から数名の子供たちが参加しました。

子供たちはゲームや軽食などを楽しみ、従業員より寄付されたおもちゃや学用品などのプレゼントを受け取った後の表情はととても輝いていました。最後は“ありがとう”の歌と子供たちの笑顔で溢れ、パーティーは大成功に終わりました。



「がんばろう日本!」Tシャツを着るサラワク州出身の女子ハンマー投げマレーシア代表選手

Tシャツにつけられた
趣意説明タグ

千代田サラワク・センドリアン・ベルハッダ(CSSB)

「がんばろう日本!」Tシャツで復興支援

CSSBがあるマレーシア・サラワク州の住民有志が、東日本大震災の復興支援として「がんばろう日本!」Tシャツをデザイン・製作しました。CSSBでは社員有志がTシャツ製作費の一部を寄付するとともに、そのTシャツを大量購入して復興支援に協力しました。購入したTシャツはCSSBの全スタッフに配布され、Tシャツの売上金は日本赤十字社へ全額寄付されました。

地元をアピールしたカレンダーで地域交流

マレーシア・サラワク州ビンツルのアマチュア写真家が撮影した、地元の人物や風景の写真で構成されたカレンダーを作成しました。ビンツルの美しさをアピールするとともに、使用した写真の被写体である住民の方々にカレンダーをプレゼントして交流を深めることができ、皆さんにも大変喜ばれました。

千代田テクノエース(株) <http://www.cta.chiyoda.co.jp/>

働きがいのある職場環境の創出



2011年9月末に神奈川県横浜市の子安オフィス・リサーチパーク別館から本館へと敷地内移転しました。

移転に際しては、千代田テクノエース(株)が抱えるさまざまな経営課題の中でも、オフィス環境を整えることで改善できる課題に絞り込み、オフィスコンセプトを確立しました。コンセプトのキーワードは「Walk Work Place:おせっかいコミュニケーションの誘発」。1フロアを、世代を超えたコミュニケーションを円滑に行うことができる空間として再生するなど、従来の機能をそのまま移転するだけでなく、会社の能力を最大限発揮できる場所として、さまざまな「しかけ」を平面計画の中に盛り込んで設計を行いました。

千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(CAEL) <http://www.cael.com.qa/>

eラーニング賞で最優秀民間企業に選出

CAELは、カタールの情報通信技術最高評議会(ictQATAR)が運営する「カタール国営eラーニング・ポータル」に登録する企業を対象としたeラーニング賞において、2011年度の最優秀民間企業に選ばれました。これは、社内のeラーニング統一化に向け大きな進展があったことと、覚書で定めた義務に対して高いコミットメントを示したことが評価されたものです。2012年2月8日に開催された第2回eラーニングイベントの授賞式では、CAELを代表して伊藤事業部長が受賞しました。社内で円滑にeラーニングを進めたことに対し、eラーニング・プロジェクトの責任者と担当者に感謝の意も伝えられました。この模様は、2月9日付のガルフ・タイムズ紙で報道されました。



より詳細な活動内容のご報告はこちら▼

Web <http://www.chiyoda-corp.com/csr/okyakusama/>
千代田化工 ビジョン 1 検索

カタール・シェル社向けパールGTLプラントの完成

GTL^(注)生産の世界的拠点を目指すカタールに、Royal Dutch Shell社(オランダ)が業界最大規模の投資を決定し、Qatar Shell GTL社として世界最大(7万バレル/日×2系列)のGTLプラント建設をカタールラスラファン工業都市に計画しました。

この巨大なプロジェクトは設備を8つのユニットに分割して世界の主要コントラクターへ別々に発注されました。当社は「天然ガス前処理装置」を受注し、プロジェクトを円滑に遂行し2011年にプラントを完成させました。

分割発注のために、各ユニットを請け負ったコントラクターの設計・工事進捗に差異が生じる中、コントラクター間で調整すべき事項が数多く発生しましたが、情報交換を頻繁に行うことでプロジェクト業務の円滑な遂行に努めました。

また、契約が発効した2006年以降、世界の建設工事ラッシュが続き、調達品の素材価格高騰や納期確保が懸念されましたが、設計・購入仕様の早期確定、ベンダーショップの負荷の見極めなどにより対処しました。



さらに現場では1日当たり最大8,000名以上の労働者が動員される工事を安全に進めることが至上命題でした。世界各国出身の作業員に対する安全教育は英語以外の母国語で行われ、休業災害の低下に努めました。プラント完成までに約7,000万時間の作業時間を費やしましたが、最長無休業災害記録は2,360万時間を記録し、死亡事故もなく、Qatar Shell GTL社の要求に応えることができました。

このプロジェクトを通じ、カタールの産業・経済の発展に寄与したことは言うまでもありませんが、技術力だけでなくプロジェクト遂行能力が評価され、改めてエンジニアリング業界での牽引役として認知されました。

(注) Gas to Liquidsの略。天然ガスからつくられる液体燃料。

再生可能エネルギー拡大への貢献

ヨーロッパをはじめとしたフィードインタリフ(再生可能エネルギーなどによる電力の固定価格買取)制度の普及により、世界の太陽電池市場は近年急激に需要が拡大しています。

日本でも再生可能エネルギーによる電力供給の必要性が叫ばれる中、2012年7月にフィードインタリフ制度が開始され、住宅用から産業用のメガソーラーと呼ばれる大型の太陽光発電所に至るまで、太陽電池の導入量は爆発的に増えるものと予想されています。



ソーラーフロンティア(株)宮崎第3工場(国富工場)

のと予想されています。

この太陽電池市場に対し、2006年に設立されたソーラーフロンティア(株)は独自のCIS^(注)太陽電池を投入しマーケットシェア拡大に向けて工場の建設投資を重ねています。2011年から生産を開始した宮崎第3工場(国富工場)は、当社が請け負って建設した工場であり、太陽電池の単一工場としては世界最大級の規模となる年産900MWの生産量を誇っており、国内のみならず全世界に製品を供給しています。

当社はこの実績とこれまでのプラント建設で培ったノウハウを生かし、再生可能エネルギーの導入を拡大させる分野へも積極的に参加することで、再生可能エネルギーの拡大に貢献していきます。

(注) 銅(Copper)・インジウム(Indium)・セレン(Selenium)の頭文字をとった薄膜系の太陽電池。シリコンを使用しないため、原料の供給不足に影響を受けることなく、安定して製品を供給することができる。

Voice お客様の声

2011年11月に竣工した当社のベンゼン抽出装置は、通常よりも3カ月短縮された完工期限の中、千代田による設計施工、無事故・無災害で計画どおり完成することができました。設計当初からコストも含め、数多くの課題を抱えながらのスタートでしたが、千代田と一緒に抽出した多くのアイデアを採用したり、人材教育や判断業務の迅速化をねらった人材面での相互協力を実践するなど、プロジェクトチームの常に真摯で前向きな姿勢によって、前例のない困難なプロジェクトが完遂できたことを大変うれしく思うと同時に、深く感謝しています。

東亜石油(株) 京浜製油所 工務部長 石田 義秀 様



より詳細な活動内容のご報告はこちら ▼

Web <http://www.chiyoda-corp.com/csr/kankyo/>
 千代田化工 ビジョン2 検索

次世代型太陽熱発電事業開発による地球温暖化防止への貢献

世界で唯一「溶融塩パラボリックトラフ型」の集熱管製造技術を持つイタリアのアルキメデ・ソーラー・エナジー (ASE) 社と、日射量が豊富で太陽熱発電に適した中東・北アフリカ地域およびイタリアにおける次世代型太陽熱発電の事業開発に関する提携協定を締結しました。

パラボリックトラフ型太陽熱発電とは、曲面の鏡を用いて集熱管に太陽光を集光し、熱媒を加熱して生成した蒸気で発電を行う方式です。従来は熱媒に合成油を使用し、400℃以下で運転してきましたが、ASE社では発電の効率化を目指し、550℃程度での運転が可能で蓄熱性にも優れた高温溶融塩が使用可能な集熱管の製造技術を確立しました。これにより、発電の効率化はもとより、蓄熱性能の高い溶融塩を熱媒と蓄熱媒体に共通して使うことでシステムの簡略化、発電コストの低減が可能となります。

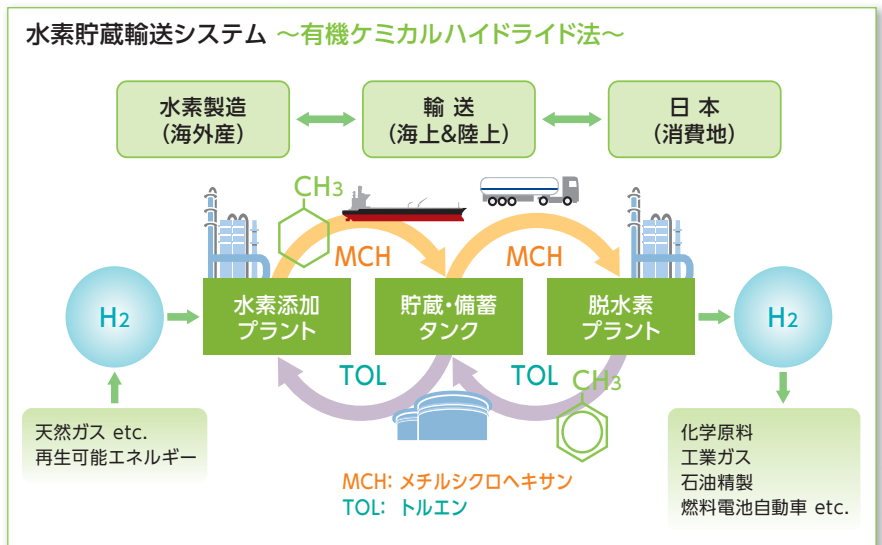
ASE社の技術と当社の中東地域における豊富なプロジェクトマネジメントの実績との組合せによる、次世代型太陽熱発電案件の共同遂行を通じて、地球の温暖化防止に貢献していきます。



パイロットプラント集光設備(イタリア・シシリー島)

水素の大量貯蔵輸送技術の開発

再生可能エネルギーの広範な利用や、CO₂削減を目的とした低炭素社会に貢献する技術として、クリーンな水素エネルギーの大量貯蔵輸送技術の開発を行っています。これは液体トルエンを水素化して、常温・常圧の液体メチルシクロヘキサン (MCH) として容易に貯蔵・輸送し、使用場所で脱水素反応を起こして水素を取り出す化学的な技術です。当社がMCHから水素を取り出す脱水素技術の開発に成功したもので、2013年に全体システムの実証試験を完了して大型プラントへの適用技術、設計手法を確立する計画です。これにより、再生可能エネルギーの広範な長距離大量輸送が可能となります。



Voice 担当者の声

「エネルギーと環境の調和」は経営理念や中期経営計画にもうたわれている当社の創業以来のキーワードであり、エンジニアリング自体が環境活動といえることから、EPC^(注1)業務における環境配慮は「当たり前」という風土が当社には根づいています。

SQE^(注2)ユニットではPDCAサイクルによるマネジメントシステムの事務局として、業務の継続的改善とお客様の満足を得るための社内支援を行ってきました。2012年度より労働安全衛生 (HS) と環境 (E) を統合したHSEマネジメントシステムの運用を開始し、“Safety is Core Value”の理念とともに、業務と一体となったHSE活動をさらに推進するよう、支援を継続していきます。

(注1)EPC:プラントや諸施設の設計、調達、建設
 (注2)SQE:労働安全衛生・品質・環境

SQEユニット 北原 英治



より詳細な活動内容のご報告はこちら ▼

Web http://www.chiyoda-corp.com/csr/syakai_kouken/
千代田化工 ビジョン 3 検索

日本フィルハーモニー交響楽団コンサートに視覚障害者の皆さんをご招待 (文化振興で地域社会に貢献)

2011年12月26日に横浜みなとみらいホールにおいて開催された日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートに、横浜市視覚障害者福祉協会の皆さん23組46名をご招待しました。

横浜市社会福祉協議会からは、コンサートにご招待した方々から送られてきた御礼状と、当社の活動に対する感謝状をいただきました。参加された方々からは「生演奏を全身で聴くことができ、とても感動した」という声が寄せられています。



感謝状贈呈式
横浜市社会福祉協議会 横松常務理事 (右)と
当社CSR管掌 小保方常務 (中央)



東日本大震災復興支援ボランティア助成規定 (従業員のボランティア活動をバックアップ)

従来ボランティア休暇制度の規定に加え、東日本大震災の復興支援を目的とした従業員のボランティア活動をバックアップする目的で、2011年7月に新たな助成制度を設けました。

主な内容は以下のとおりです。

1. 特別有給休暇の付与
従業員各自の有給休暇とは別に特別有給休暇を付与
2. 保険料の負担
ボランティア活動保険の保険料を会社が負担

3. 物的助成
ボランティア活動に必要なマスク、ヘルメットなどの支給

2011年度の制度利用者は11名、延べ29日になります。
なお、2011年は東日本大震災に加え、和歌山県などの集中豪雨による激甚災害が発生しており、これらの災害支援ボランティア活動参加への希望に応えるために、助成制度の適用対象を東日本大震災以外にも広げる予定です。



地元大学のキャリアフェアイベントに参加

カタールの千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(CAEL)は、地域社会への貢献活動の一つとして、2012年2月15日に同国の首都ドーハで開催されたTexas A&M Universityの5th Career Fair Eventに参加しました。

当日はCAELの業務内容に興味を持つ熱心な学生たちにインタビューを行いました。40名を超える学生からインターンシップの申し込みがあり、7名が決定しました。

CAELはこのような地域活動を通じて、カタールの学生の成長と能力開発に貢献しています。

千代田フィリピン・コーポレーション(CPh)のCSR活動をバックアップ

フィリピンでは、CSR法案が国会に上程され審議されています。この法令の施行を視野に入れ、CPhでは、専任のCSR担当者を任命して、対応の準備を行っています。2011年9月には、本社のCSRユニット担当者が同社を訪問し、基本的なCSR活動についての説明会をマネジャークラスに実施するとともに、CSR担当者間での意見交換を行いました。

2011年度に実施したその他の活動事例 (千代田国内グループ会社)

| | |
|------------------|-----------------------|
| 大学教育への協力(講師派遣) | 7名 |
| 教員の企業研修 | 10名 |
| インターンシップ学生の研修 | 30名 |
| TABLE FOR TWO | 延べ2,257食 |
| クリーンキャンペーン(清掃活動) | 実施回数 3回 参加者 延べ179名 |

Voice 役員の声

2011年11月に開催されたエンジニアリングシンポジウムは、「復興から創生」がテーマでした。シンポジウムの実行部会長を拝命しその詳細をプランしていく中で、震災の現場をきちんと見る必要性を感じ、9月に宮城県石巻で行われた3日間のボランティア活動に参加しました。

養殖筏の重りをつくる作業、漁港の側溝の泥の掻き出し、農家の草刈りや清掃を分担して行い、私たちボランティアの「被災された方々の役に立ちたい」という思いは伝わったように感じました。ボランティア活動に参加するきっかけはそれぞれ違うと思いますが、まずは参加することが大切です。千代田グループもボランティア活動への参加を推進する制度づくりや、グループで参加できるような支援プログラムづくりに取り組み、社員をバックアップしていきたいと考えています。

取締役常務執行役員 澁谷 省吾



より詳細な活動内容のご報告はこちら ▼

Web <http://www.chiyoda-corp.com/csr/kakawari/>
千代田化工 ビジョン 4 検索

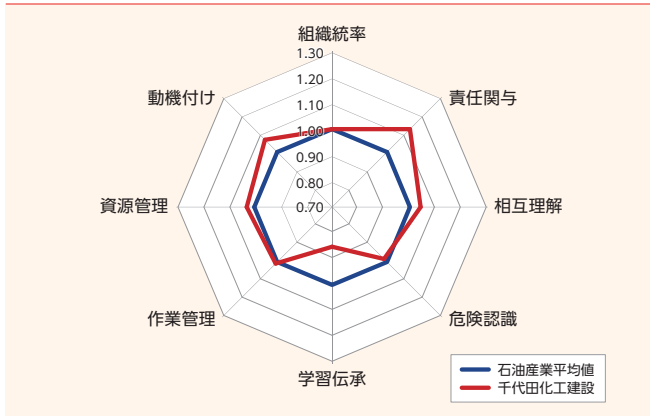
働きやすい職場環境づくり

千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ(CMSB)では、従業員がいくつかのチームに分かれてビーチフットボール、ウォーターポロ、ネットボール、バレーボールなどの競技を行っています。このようなスポーツトーナメントの実施は、従業員同士の絆を強める方法の一つと考えており、健康維持やチーム力向上にも役立っています。



ビーチフットボールの様子

安全文化の確立



安全文化診断結果

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の高野研一教授に、同教授が提唱されている「安全文化の8軸(組織統率、責任関与、相互理解、危険認識、学習伝承、作業管理、資源管理、動機付け)」をベースとする安全文化診断を実施していただきました。当社国内8現場の監督者と職長へのアンケート調査をもとに行われた診断結果により、当社の安全管理における「強み」と「弱み」を明確にすることができました。

今後、「弱み」とされた項目についてはその改善策を講じるとともに、「強み」については一層強化し、当社グループ全体の安全文化をより成熟したものとしていきます。

人材育成制度

千代田フィリピン・コーポレーション(CPh)では社会貢献の一環として、1~1.5カ月のインターンシッププログラムを実施しています。このプログラムはフィリピンの学生にエンジニアとしての研鑽を積む機会を広く提供するとともに、将来の強いネットワークづくりを支援することを目的としており、毎年フィリピン国内のさまざまな大学から15~30名の学生たちが参加しています。



インターンシッププログラム参加学生

Voice 従業員の声



私は2010年10月に総務部門の官庁関連手続担当として千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(CAEL)に入社しました。私の主な業務は、従業員の商用ビザや就労ビザ、居住許可書の取得、お客様の商用ビザの延長の手配、会社の登記簿謄本の更新手続きなどです。

CAELは働き甲斐ある会社だと思っています。これまで2年間、多くの変化がありました。どのような仕事やキャリアに就いているとしても、自分の励みになるものや動機、順応性があれば、仕事を通じて前向きに成長できるものです。

私は2012年第1四半期のスーパースター賞をいただきました。これは社内で最高の成果を上げた業務や社員を表彰する報酬・表彰制度のうち、事業運営部門で最高の実績を出した人に与えられる賞です。この賞をいただいて本当に感動していますし、もっといい成果を出そうと、一層モチベーションが上がっているところです。

Mr. Ahmed Ibrahim
Public Relations Officer, Business Department
Chiyoda Almana Engineering LLC

CAEL 香田会長(左)と本人(右)

より詳細な活動内容のご報告はこちら ▼

Web <http://www.chiyoda-corp.com/csr/compliance/>
 千代田化工 ビジョン5 検索

コンプライアンスへの取り組み

情報セキュリティや輸出管理を含む事業遂行上の最新の諸規制やルールなどに関し、常に国内外の関係当局や顧客をはじめとするステークホルダーからの要請事項をタイムリーに把握し、それらの対応を確実に業務プロセスに落とし込むことにより、コンプライアンスの徹底に努めています。この一環として「国内外出張所・グループ会社との連携強化」、「継続的なコンプライアンス教育および監査の実施、充実」、「情報管理の徹底」などを重点管理目標として掲げています。2011年度の主な活動は次のとおりです。

- (1) 国内外グループ会社への周知、およびコンプライアンス対応状況のチェック(国内外建設現場へのパトロールを含む)
- (2) 外国公務員贈賄禁止に関する社外専門家による講義：不正競争防止法・米国腐敗行為防止法に、英国贈収賄法(2011年7月に施行)を追加
- (3) 建設業法に関する内部監査調査票の改訂(反社会的勢力排除項目の追加など)
- (4) 情報セキュリティチェック月間(2月、9月)・内部監査・グループ研修の継続
- (5) 当社のISO27001認証の継続、およびグループ内の認証取得企業の拡大
 - ・ 認証継続の外部審査の際、主任審査員より「従業員の情報セキュリティに対する意識が浸透している」との高い評価を得た

- ・ 認証を新規取得したグループ会社
 - ① 千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(CAEL, 2012年1月)
 - ② 千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(CSL, 2012年5月)

また、2010年度より実施している「エコオフィス活動」の一環として、紙文書の30%削減運動を2012年6月の新オフィスへの移転に際しても実施しました。これは環境への貢献のみならず、情報管理の徹底にも寄与するもので、電子ファイルの整理・削減と合わせて今後も継続していきます。

さらに新オフィスでは最新式ICカードによる、徹底した入退室管理を含むさまざまな措置を講じるなど、情報セキュリティリスク対応にも配慮しています。



ISO27001認証書 (CAEL, CSL)



情報セキュリティ研修



相談・通報窓口受付担当者研修

2011年度に千代田化工建設が主催した研修

コンプライアンス関連

| | |
|---------------------|---------|
| コンプライアンスeラーニング | 2,900名 |
| 管理職コンプライアンス研修 | 111名 |
| 執行役員コンプライアンス研修 | 28名 |
| 海外グループ拠点コンプライアンス研修 | 3カ所 |
| 建設業法講習会 | 63名 |
| 下請法・独占禁止法講習会 | 73名 |
| 海外腐敗行為防止講習会 | 37名 |
| 相談・通報窓口受付担当者研修 | 20名 |
| 出張所長赴任前研修 | 25回 39名 |
| 全社通達(セクシャルハラスメント防止) | 1回 |
| 全社通達(各種法令) | 2回 |

安全保障貿易管理関連

| | |
|---------------|---------|
| 全社通達(輸出管理通達) | 4回 |
| 安全保障貿易管理一般研修 | 7回 211名 |
| 輸出管理コーディネータ研修 | 5名 |

情報セキュリティ関連

| | |
|----------------------|---------|
| 情報セキュリティeラーニング | 1回 880名 |
| 情報セキュリティ研修 | 2回 162名 |
| 全社通達(情報セキュリティチェック月間) | 2回 |

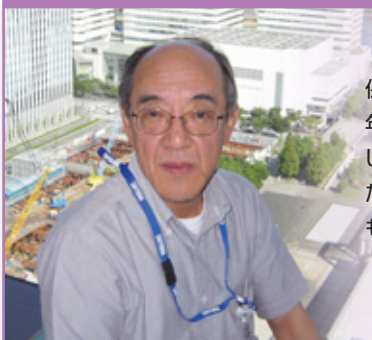
CSR総合研修

| | |
|----------------|--------|
| 新入社員CSR総合研修 | 101名 |
| キャリア採用者CSR総合研修 | 4回 41名 |
| 専任職CSR総合研修 | 4名 |

相談・通報制度の実績

| | |
|---------|----|
| 職場環境の改善 | 9件 |
| 就業規則の遵守 | 5件 |
| 注意喚起の要望 | 1件 |
| その他 | 1件 |

Voice 担当者の声



輸出事故が起こることのないよう、輸出管理は貨物・技術両面からの判定が必要であることを、関係書類作成の督促とともに相談の窓口としてプロジェクトマネジャーにアドバイスしています。2011年度の案件処理数は引合・遂行案件を合わせ80件余りでした。最近では社員への教育活動の一つとして、輸出管理に関する一般知識や当社の輸出管理体制などについての基礎的な知識を身につけるため、入社年次ごとに分けた階層別研修が安全保障貿易管理セクション主催で実施されていることもあり、全社的に輸出管理の必要性が認識されてきていると感じています。

輸出管理コーディネータ
プロジェクト工務ユニット 立野 操

第三者意見

千代田化工建設 グループCSR報告書の客観性を高めるとともに、CSRの課題をとらえるために、有識者からの第三者意見をいただいています。寄せられた意見は、今後の報告書作成に生かすとともに、千代田グループのCSR活動を推進する上で参考にさせていただきます。

千代田グループの「CSRの考え方」では、創業者の「企業の社会的責任が問われ、社会の福祉に役立ち、社会から信任される企業でなければ、その存立すら危ぶまれる時代となった」^(注)という認識が、脈々と流れ続けていることが述べられています。この先見性は目を見張るものですが、「持続可能性」という言葉が、より深刻に我々の目の前に突きつけられている現在、「社会の福祉」や「社会から信任される」という言葉の内容を改めて確認しておくことは意味があるでしょう。日本という国家にとって、エネルギーと石化資源の安定供給は経済発展の礎であることに間違いありません。ガス精製、LNG生産、石油精製、化学合成、原子力などの各種プラント・施設的设计・建設を推進する事は、まさに「国益」に適う事業でした。しかし、人口減少と国内産業の集約化は、日本国内で「社会の福祉」とは一体何かを再定義する機運を生み出しています。また、東日本大震災と原発事故は「社会から信任される企業」のあり方を問い直そうとしています。

一方、今日、千代田グループの活躍の舞台は、もはや日本にとどまりません。発展途上国で各種プラント・施設的设计・建設を担う機会も、今後も増えていくでしょう。そこでは資源ナショナリズムの意識が、今後、確実に大きくなっていきます。資源、エネルギーの輸出が、いま現在、足元の富を生み出すとしても、それが自分たちの長期的な利益につながるのかという疑問が常に提起されてきます。

千代田グループのCSRの情報発信には、こうした国内の「社会の福祉」や「社会からの信任」をどう考えるのか、海外の資源ナショナリズムの高まりにどう配慮するのかといった視点が欠かせないと考えます。

この観点から、「低炭素社会・水素社会に向けた研究開発」、「再生可能エネルギーの普及」関連の記述には関心を持ちました。特に、太陽熱発電事業開発は、日本企業の強みをさまざまな形で発揮できる領域と考えています。千代田グループが世界のフロントランナーとなられることを期待します。

一方で、海外のプラント・施設立地地域への配慮、貢献についての記述は大いに拡充してよいのではないかと感じました。「コミュニティ参画やコミュニティ発展」には、「教育や文化の振興」、「雇用創出」、「技術移転」、「衛生状態の改善」などの要素を含みます。また、周辺住民の人権侵害の排除や汚職の回避といったテーマも、ここに含まれるでしょう。

米国のプラント・エンジニアリング企業では、「先住民との協働による国際的行動規範への適合」、「工事終了後の建設労働者の就業機会創出のためのスキル形成」、「現地の取引先活用のための配慮」、「プラント・施設と公共の利益を両立させるためのエンゲージメント」などを「持続可能性担当グループ」の役割として掲げています。

千代田グループでも、個々のプロジェクトの中で、同様の取り組みは存在しているものと理解していますが、今後、さらに具体的事例を報告いただきたいと期待します。従来、プラント・エンジニアリング企業は施主(発注者)などとの関係から、情報開示が必ずしも十分ではない側面がありましたが、千代田グループがこうした開示で先頭に立つことが、国内外から「信任される企業」となる道筋であると確信しております。

(注) 千代田化工建設 Webサイト「CSRへの取組」参照。
<http://www.chiyoda-corp.com/csr/torikumi/index.html>



(株)日本総合研究所
理事
足達 英一郎氏
(あだち えいいちろう)

1986年一橋大学経済学部卒業後、1990年(株)日本総合研究所入社。経営戦略研究部、技術研究部を経て、現在、ESGリサーチセンター長。主に企業の社会的責任の観点からの産業調査、企業評価を手がける。三菱商事復興支援財団理事も務める。

主な共著書に「CSR経営とSRI」(2004年、きんざい)、『地球温暖化で伸びるビジネス』(2007年、東洋経済新報社)、『環境経営入門』(2009年、日本経済新聞出版社)など多数。

私たちはグループの力を集結して事業を進めています

主要なグループ会社 (2012年3月31日現在、千代田化工建設の連結子会社・持分法適用関連会社)

〈国内グループ会社〉



千代田工商株式会社

各種産業用機械設備の設計・建設・メンテナンス、保険業務等



千代田計装株式会社^{※1}

電気・計装・制御・FAシステムの設計・調達・施工及び保守



千代田テクノエース株式会社

医薬品・石油施設の土木建築関連工事のコンサルティング、
企画、設計、施工、試運転等



千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社^{※2}

各種解析技術、産業用機械設備の改善、コンピュータ応用システム、
宇宙環境利用等に関するコンサルティング及びエンジニアリング



アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社

財務・会計・税務に関する総合コンサルティング及び業務受託等



アローヘッド・インターナショナル株式会社

旅行業、航空運送、資材輸出等



千代田コーテック株式会社

各種産業用機械設備・地域開発等の総合コンサルティング、
ISO認証維持のための審査業務、人材派遣業



ITエンジニアリング株式会社^{※1}

総合ITシステムのコンサルティング・開発・運用、
ERP・Web系システムエンジニアリング等



アローヒューマンリソース株式会社

総合人材サービス、人材派遣業、職業紹介業、
アウトソーシング事業、教育・研修事業



〈海外グループ会社〉

・各種産業用機械設備の設計等

千代田フィリピン・コーポレーション(フィリピン)
エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(インド)

・各種産業用機械設備の設計・建設等

千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(シンガポール)
千代田インターナショナル・コーポレーション(アメリカ)
ピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア(インドネシア)
千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド(ミャンマー)
千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ(マレーシア)
千代田タイランド・リミテッド(タイ)
千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(カタール)
千代田ナイジェリア・リミテッド(ナイジェリア)
千代田サラワク・センドリアン・ベルハッダ(マレーシア)
千代田ペトロスター・リミテッド(サウジアラビア)

※1 千代田計装(株)とITエンジニアリング(株)は2012年10月1日に合併し、新社名を千代田システムテクノロジーズ(株)とします。

※2 千代田化工建設(株)は2012年10月1日に千代田アドバンス・ソリューションズ(株)を吸収合併し、同社事業を継承します。

CSRへの取り組みに対する
社会的責任投資(SRI)評価機関からの評価
(2012年8月現在)



FTSE社(英国)の社会的責任
投資指標に組み込まれています。



「DJSI Asia Pacific」の構成銘柄として採用されています。



〒220-8765 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいグランドセントラルタワー

本報告書に関するお問い合わせ先:
CSRユニット(TEL 045-225-7741 FAX 045-225-7962
E-mail csr@ykh.chiyoda.co.jp)